

# 日本遺産四つ 連携して誘客

## 県内 学びと体験提供

地域の歴史や文化財群を総合的に整備、活用し、広く発信して地域振興につなげる文化庁認定の県内四つの「日本遺産」を生かそうと、広域連携が進んでいる。今年度は、諏訪地方6市町村を含む長野、山梨両県の縄文文化を伝える日本遺産を起点に日本の農村文化発展の軌跡をたどる旅行商品をつくり、誘客を図る。受け入れ体制を整え、旅行会社の視点を取り入れながら造成する。(野村知秀)

## 今年度は旅行商品づくり

旗振り役は、四つの日本遺産に係る自治体や観光協会、博物館など18団体で構成し、2023年度に発足した「信州4大日本遺産周遊促進協議会」。この観光まちづくり推進機構(ちのDMO)の熊谷晃専務理事(茅野市地域創生政策監)が会長を務めている。県内の日本遺産は、諏訪地域を含む長野、山梨両県14市町村の「星降る中央高地の縄文世界」、上田市の「レイラインがつなぐ太陽と大地の聖地」、千曲市の「月の都千曲」、長野、岐阜両県8市町村の「木曾路はすべて山の中」。

協議会では縄文世界を「原始」、レイラインを「古代・中世」、

## 「縄文」起点に農村文化の軌跡たどる

月の都を「中世・近世」、木曾地域を巡る旅を想定している。24年度にはモニターツアーの実施や広報素材の製作、観光総合イベントへの出展、関係者間との意識共有を図るフードの育成などにも取り入れれば今秋にも一般客と受け入れ体制の整備に向けた



県内の四つの日本遺産を巡り、日本の農村文化発展の軌跡をたどる旅の構想を語る熊谷晃会長＝茅野市尖石縄文考古館

け今年度は夏にも旅行などを現地に招いて各地を体験してもらおう機会を。専門的な視点を取って旅行商品に仕上げ、早ければ今秋にも一般客と受け入れ体制の整備に向けた

熊谷会長は「日本遺産を求めた訪日外国人だけでなく、古里を

### クラマ肉料理「チャーシュー」居酒屋 笑吉

首都圏、大都市圏の人々から愛される季節によって景色を語るガイドを富裕層、カップル、学生とさまざまなバリエーションを用意して多様な客層を提案していく。観平を大切に、焦らずに仕上げたい」とい